

兵庫 県
保険医協会

西宮 支部
芦屋 ニュース

No. 344

2018・9・15

〒662-0832

発行 兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部
西宮市甲風園一―一五 法貴皮膚科内
連絡先 兵庫県保険医協会
電話〇七八(三九三) 一八〇三

第37回支部総会記念 市民公開講演会 (感想文)

科学者の視点から原発問題や平和など語る

マジックも披露しながら人はなぜ騙されるかを解説

西宮・芦屋支部は7月28日に西宮市・なでしこホールで第37回支部総会記念市民公開講演会を開催。医療関係者、市民など63人が参加した。

記念講演では、立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長の安齋育郎先生が「安齋育郎のビビッときた話 うたがう心・科学の眼」をテーマに講演。広川恵一先生(西宮市・広川内科クリニック)が司会を務め、大森公一先生(西宮市・大森内科医院)が開会のあいさつ、法貴憲支部長(西宮市・法貴皮膚科)が謝辞を述べた。

総会議事では林田英隆先生(西宮市・林田クリニック)の議長の下、2017年度活動報告と2018年度活動方針案が提案され、全会一致で承認された。参加者からの感想文を掲載する。

最初の印象は、「このひと(安齋先生)本当に78歳?」。聴衆との受け答え、返答の速さ、記憶力などとても素晴らしいと感じた。



安齋先生が原発問題などについて分かりやすく解説した

かつて、先生の話を神戸の大きな会場でお聞きしたが当時の私には印象は薄かった。しかし、今回は、参加者60名くらいの、比較的小さなところでの講演で、質疑応答に時間をさいてもらい、双方向性の講義であったことがそう思わせたのかもしれない。最初にマジックで人をだまし、洗脳することなどを面白く聴衆に語られた。そして、



スプーンを空中で曲げるマジックを披露

憲法9条と平和の関係、核兵器については、私とは全く違った考え方であった。しかしこの問題を価値的命題と位置づけおられ、彼がなぜそう思うのかということについて理解できたし、反対意見についても尊重されていたのはすばらしいと思った。後日、今年の6月に福島に行かれた時の(震災後50回以上行かれた)報告書を送っていた。彼は、知的好奇心(真実を知りたい)に加えて、この大災害を客観的にデータとして後生に記録として残したいと思っていることがよくわかった。私と一回り年が違うが、はたして12年後に私はどのような活動性を保てるだろうか?保つには、何に対しても興味をもって、現場での活動を続けることであろう。10年先のあるべきひとつのロールモデルをみさせてもらい、爽やかな気分になった。

【西宮市・伊賀内科・循環器科 伊賀幹二】

介護報酬改定情勢勉強会

介護保険利用者の実情明らかに

西宮・芦屋支部は6月9日、西宮市立勤労青少年ホームで、「介護改定で介護の現場はどうなった?どうなる?」をテーマに介護報酬改定情勢勉強会を開催。西宮市高齢者あんしん窓口深津の松下裕之氏と、深



独自資料で解説する松下氏

津居宅介護支援事業所の吉田明氏が講師、広川恵一先生(西宮市・広川内科クリニック)が司会を務め、医師・ヘルパー・ケアマネジャーら22人が参加した。

松下氏は独自の資料に基づき、2000



介護の実例を紹介する吉田氏

年に1割負担からスタートした介護保険制度が、2割負担、さらに3割負担へと引き上げられてきた経緯などを説明。「たまたま前年に臨時の不動産収入があった場合などでも3割負担となってしまう。自己負担を払うことができず、デイサービスの利用を諦めたために家にこもりがちになり、認知機能が低下した利用者もいた」など、現場の深刻な状況を報告した。

吉田氏は自己負担引き上げによって実際に利用者がどのくらいの費用を払うことになったのか、明細書なども示して実例を紹介。「介護者が明細書など見ることはあまりないと思うが、利用者の実情を知ってほしい」と解説した。

参加者からは「利用者の実情を知ることができ、非常に参考になった」「制度についてあらためて見直す機会になった」などの声が寄せられた。

院内感染対策研修会BBPPコース (感想文) 明日から使える血液感染対策を学ぶ

西宮・芦屋支部は6月16日に西宮市・あしだこども診療所で「血液に触れることのリスク、触れないための方法、触れた時の対処法」をテーマに院内感染対策研修会・第4回BBP (血液伝播病原体) コースを開催。アメリカ心臓協会 (AHA) インストラクターの登山寿子看護師が講師、芦田乃介先生 (西宮市・あしだこども診療所) が司会を務め、医師・看護師ら10人が参加した。参加者からの感想文を掲載する。



汚染物を処理した後の手洗い方法について実習を行う参加者

以前、DOAC服用中の患者さんが投薬中に鼻血を出すという経験しました。既往歴では血液感染を疑う疾患はなかったため、患者さんにはその場で止血してもらい、処方元の病院に経緯を伝え減薬中止の有無を確認。投薬台などに飛び散った血は手袋がなかったため、ビニール袋を手袋がわりに水拭き、乾拭き、アルコール消毒を行い、そのビニール袋に全てを入れて破棄し、自身は手洗いを行いました。

この対応が本当に正しかったのか、気になっていました。今回のBBPコースの受講で、バイオハザード容器を普段から用意すること、また曝露報告を行うことで自施設用の曝露管理計画をより充実させられることを学びました。

また手洗いと正しい手袋の着脱実践は、医療従事者だけでなく、患者さんやその家族、介護者の方々もすぐにできる内容なので必要に応じて服薬指導に活かしたいと思いました。

目に見える血液だけでなく、見逃しがちな唾液、嘔吐、鼻汁中にも血液を含む事を忘れないようにしつつ、これからはP||防御、A||行動、C||除染、T||報告の「PACT行動」を確認、実践していこうと思います。

【すみれ薬局苦楽園店 薬剤師 吉田まり】

第10回被災地交流／物産・物品展

二胡演奏や実演販売で活気あふれる会場

西宮・芦屋支部は7月7日、広川内科クリニックで第10回被災地交流／物産・物品展を開催。地域住民や支部役員などが参加・交流した。

物産・物品展は東日本大震災の被災地支援と地域交流を目的に定期的に開催しており、岩手県宮古市で物産品を販売する「かけあしの会」、岩手県藤沢市で手縫い工芸品を販売する「ちくちく工房」、福島県の

伝統工芸品・会津木綿の小物雑貨を販売する「三春彩花」が参加したほか、宮城県気仙沼の復興住宅で作る手籠なども販売。さらに今回は熊本地震支援のため、熊本県南阿蘇村の低農薬野菜も販売した。

当日は雨の降るあいにくの天気だったが、蒸し牡蠣、ホタテやつぶ貝の串焼きの実演販売や、劉揚さんによる二胡演奏も行われ、活気あふれる物産・物品展となった。



熊本の低農薬野菜や、東北の海産物など、多数の物産、物品が陳列販売され、活気にあふれる会場



劉揚さんが奏でる二胡の演奏に聞き入る参加者

世話人会だより

西宮・芦屋支部は7月27日(金)と8月24日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催。それぞれ4人、3人が参加した。

【報告】

- ① 病診連携勉強会 (6・2)
- ② 介護報酬改定情勢勉強会 (6・9)
- ③ 院内感染対策研修会 BBPコース第4回 (6・16)
- ④ 第10回被災地交流／物産・物品展 (7・7)
- ⑤ 第38回支部総会記念市民公開講演会 (7・28)

【予定・企画】

- ① リスクマネジメント研究会 (9・8)
- ② Medical English #52 (10・19)
- ③ 第18回胸部X・P読影会 (11・2)

【予定・企画 (日時未確定)】

- ① 第7回ファイアサイドディスカッション
- 【協会・保団連行事】
- ① 第27回日常診療経験交流会 (10・28)
- ② 第33回保団連医療研究フォーラム (11・23～24)

*世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

英語で診療 Medical English #52

Role Playingシリーズ⑰ 歯科領域
「糖尿病患者の歯周病、幼児へのう蝕予防指導」 (仮)

日	10月19日(金)	午後2時～
会場	西宮医療会館	
講師	Mr. Robert Conroy	
司会	ビューハイッククリニック 坂尾 福光 先生	
参加費	無料	